

ねじりはちまき

7月 文月 小暑、大暑の月になりました。

7月1日半夏、富士の山開き、6日小暑、7日たなばた、22日大暑、24日丑の日となっております。

7月20日頃になりますと梅雨が明けて暑さがピークに達し1年の最高気温を記録する日々が続きます。蝉の大合唱がひびき渡り、空には入道雲がみられる夏真っ盛りですが激しい雷雨が訪れたり、水不足に悩んだりするのもこの頃です。24日は土用の丑の日です。うなぎを食べる日ですが、うなぎではなく「う」の付く食べ物でも良いと言われていています。例えば、うどん、梅干し、ウリなどを食べると夏バテしないと今でもその習慣が根付いています。

幸田常一

<会社近況>

ただいま、郡山市、本宮市などの現場でお世話になっております。

郡山市の現場で住宅新築工事をお世話になっております。また、事務所内では図面や必要書類の作成などを行っています。雨の時期がまだ続きそうですので、安全に気をつけながら作業を進めているところです。

<商品紹介>

シャッター、雨戸で**防災！防犯！**

近年、台風やヒョウ被害が強大化し、住まいの安全を脅かす事態が多くなってきています。強風による影響で鉢植えなどが飛び、ガラスが割れたり破片が飛び散るとケガをしてしまう可能性も出てきます。暴風の影響を受けやすい窓を守る対策として、シャッターや雨戸があるとひとつの備えになります。

リフォームシャッター

「標準タイプ」・「耐風タイプ」は、スラットが抜けにくい構造で、ガイドレールも強度アップ。電動を選べば、大雨でも濡れずに開閉できます。



リフォーム雨戸(雨戸一筋)

わずか2時間[※]で壁の上から簡単に後付け可能。台風時の飛来物や侵入者から住まいを守ります。
※現場によって施工時間は異なります。



TOSTEM さんカタログより

令和6年7月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田 久美

〒969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記> 先日、エアコンフィルタ掃除の為カバーを開けると、信じがたい量の

ホコリが…もこもこ状態でした。

この空気を吸っていたかと思うと

冷や汗ものです(^_^;) ほしの

前回に引き続き、サイエンスライターの細川博昭さんの対談記事をもとに「人間が特別でないということ、鳥が教えてくれる」に関して、細川さんの見解を紹介していきたいと思う。前回もびっくりさせられる鳥の生態が紹介されて認識を新たにしたが、今回はさてどんな事実が飛び出してくるものか楽しみにしていただきたい。

①鳥のコミュニケーション・ツールは「地鳴き」と「さえずり」

- ・飛翔する鳥にとっては、目から入ってくる視覚情報は絶対欠かせないものだが、鳥の生活においてより広く活用されているのが、耳から入ってくるさまざまな音、聴覚情報であり、声による伝達である。鳥は表情筋が少ないため、人間のように微妙な表情をつくって相手に示すことができないが、声ならば、伝えたいことを伝えたい相手にまっすぐ届けることができる。
- ・鳥の出す声には、「地鳴き」と「さえずり」の二種類がある。地鳴きは基本的に一音節で、すべての鳥が生まれながらに出すことができる声である。地鳴きというのは、警戒音などの危険を知らせる声や雛（ひな）が空腹を訴えて餌をねだる声などがそれである。
- ・地鳴きの声は、種によってさまざまで、多くの鳥が何種類かの声を使い分けているが、そのすべてが遺伝子を介して脳に刻まれているため、同種の鳥ならば声の意味を理解するための苦労はいらない。また、切迫した響きの警戒音なら、異種の鳥でも理解が可能である。
- ・さえずりはコミュニケーションに特化した声で、訓練なしにはきれいに発することはできない。複数の音節からなり、音楽的な響きを持つことから、古くから歌と形容され、鳥が持つ好ましい資質として人々に愛されてきた。
では、鳥がさえずる目的は何かというと、メスを獲得するために、自分が良い声を持った優れたオスであることを主張するもの、また、自分の居場所や縄張りを主張するためで、繁殖と強く結び付いている。そのためにさえずる期間が決まっていて、その時期をコントロールしているのが、性ホルモンのテストステロンというものである。

②「発声学習」をする鳥

- ・（音声を使った音声コミュニケーションというと、セミやコオロギ、スズムシなどの昆虫類でも行われているように思うが、それとの違いはどんな点か—という問いに）人間もそうだが、それは発声を「学習するか、しないか」という点だ。人間は成長する過程で周りから聞こえる声をもとに言葉を覚え、覚えた言葉で話をする。さえずる鳥もまた、幼鳥から成鳥になる時期に、耳にしたさえずりを記憶し学習して、さえずりを身に付ける。共に「まね」から始まり、時間をかけて熟練度を上げていくことを「発声学習」と呼ぶ。
- ・発声学習をするには、聞き取る耳と、聞いた音や声を発する発声器官が必要だし、同時に、聞き取った音や声を学習する脳の機能も必要になる。そのすべての条件がそろわないとできないため、地球上で発声学習が可能な生き物は、ごく限られたものになっている。
- ・鳥類では、オウムやインコなどが人間の言葉を真似て話すことが知られているが、鳥類全種のおよそ半分の約五千種に発声学習ができる能力が備わっていると言われる。一方、哺乳類では、人間とイルカ、クジラの仲間である鯨（げい）類だけである。チンパンジーやゴリラは人間に近い遺伝子を持った仲間だが、彼らには発声学習する能力はなく、陸上の哺乳類では人間だけが持っている特別の能力である。

③高度な音声表現をもつジュウシマツ

- ・（ご著書には、ジュウシマツは文法に基づいたさえずりをもっていると書かれているが—という問いに）ジュウシマツは、江戸時代の日本で東南アジア産のコシジキンパラという鳥を品種改良して生まれた。野生には存在しない鳥である。そのさえずりを録音して詳しく分析すると、音のつながりがユニット化していることが分かったのである。発するさえずりを、ある決まった小ユニットに分けることができ、その連なりに一定の規則ができていて、発声者のはっきりした意思のもとに表現されている。その構成は、人間の言語でいうところの「文法」に相当すると考えることができる。単語の一つ一つに意味があり、その組み合わせで内容のある言葉をつくる人間の言語の文法とは大きく違っているが、構成という点にのみ注目すると、動物の中では他に例をみない、極めて高度な音声表現である。それができる鳥の脳は、言語機能的な活動ができる、高度に発達したものであるということが言えるものである。

④人間の言語獲得に、重要な示唆を与えるさえずる鳥

- ・人間が言語を獲得した過程について、鳥のさえずりが重要な示唆を与えてくれているのではないかと考えている研究者は少なくない。
- ・言葉を形づくれるようになる以前の人間は、地鳴きのように固定された吠（ほ）え声などで仲間とやりとりしていたはずである。それが、声帯が今のようになり、声を作れる体になるのだが、その時はまだ言語はなく、その代わりに抑揚のあるメロディーに「ウォウ、ウォウ」といった声を重ねて、そこに感情を乗せて伝えたり、情報を伝えるのに利用していたのではないかと考えられている。そして、それが特定の音の部分、部分に動詞や名詞としての意味が定着するようになって、言語として確立されていったのではないかという説がある。
- ・いずれにしても、言語を獲得する前の人間がしていたのは、鳥たちがしているコミュニケーションに近いものだったのではないかと推察される。
- ・(人間の言語獲得には、鳥のさえずりと共通性があるということかーの問いに) さえずる鳥は、聞いて覚えた歌を自分のものにするために、ひとり言のように歌や発声を練習する時期があり、そうした行動を「ぐぜり」と呼ぶ。人間も幼児も、言葉を覚えたての頃、言葉にならない言葉を、一人でもごもご言ったりすることがあり(それは「喃語」と言われる)、こうしたことは鳥も人間も、自分の口から言葉やさえずりを発するための訓練をしていることを示している。

⑤人間も鳥も共に地球に生まれた生き物の一つ

- ・(お話しを伺って、鳥が驚くべき能力を持っていることがよく分かったが、鳥の研究を長く続けてこられて、実感していることをお聞かせ願いたいーとの問いに) 次のように答えている。
- ・哺乳類の一員である人間は、長い進化の歴史の中で、遠い祖先から枝分かれして生まれてきた生物の一種である。鳥類も、数億年の隔たりはあるものの、共通する祖先から生まれた生物で、その脳にも心にも内臓にも人間と共通する部分がある。遺伝子にも共通する DNE があり、脳を含めた体内で、同じ物質が同じように作用しているのが人間と鳥なのである。
- ・人間には、確かに特別な部分、資質があるが、だからといって決して特別な存在とは言えない。カラスやインコなど鳥にもそれぞれに特別な部分や資質があるが、もちろん彼らも特別な存在とは言えない。共に地球に生まれた一つの生き物なのだと、私は考える。
- ・それゆえに、鳥が持つ特別な部分と人間と共通する部分や、大きく違っている部分について、さらに理解を深めていくことによって、より深く人間を理解することができるはずだと思う。
- ・そうした意味で、「人間とは何か」といった問いに対する解答に至る鍵の一つを、鳥が持っているのは間違いない。それはまた、チンパンジーなどの人間に近い霊長類が持つ鍵とは別のものであり、この二つの鍵を合わせることで、「人間とは何か」の重い扉を開けることが可能になるのではないかと思う。ー以上です。

最後はちょっと重くなったが、人間存在について鳥との関係で考えさせられることが多々あったと思う。いずれにしても、最近鳥たちのさえずりが何をいっているのかと気になっている。ウグイスの惚れ惚れとするさえずりを聴くとオスがメスに呼びかける甘い感じが伝わってくる。カラスの力強いさえずりを聴くと、みんなに集合の合図をしているようにも聞こえる。これで終わりとする。

南アルプスの展望台 日本三百名山 アサヨ峰

雄国沼 ニッコウキスゲ

(百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、う百：うつくしま百名山、カッコ内の数字は標高)

【今回登った山】

アサヨ峰 (○ 2799m、南アルプス)、日本三百名山 (百、二百含む) 未踏 13 山の一つ。単独。

雄国沼 (おぐにぬま、北塩原村 (裏磐梯)、磐梯朝日国立公園内の沼、湿原、湖面標高 1090m)。公民館事業、ニッコウキスゲ、70 人参加。

アサヨ峰

南アルプスに位置する日本三百名山は 19 山ある。このうち現時点で未踏なのはアサヨ峰と鋸岳 (◎のこぎりだけ、2685m) の 2 座。鋸岳は歩行距離が長く、自分にとって難易度が高く時期的にまだ早いので、登山口までのアクセスが良く比較的容易なアサヨ峰に登ることにした。

アサヨ峰は南アルプス甲斐駒ヶ岳 (百 2967m、甲斐駒)、仙丈ヶ岳 (百 3033m)、北岳 (百 3193m)、鳳凰三山 (百 地藏ヶ岳 2768m、観音岳 2840m、薬師岳 2780m) などの南アルプス北部のど真ん中に位置し、それらの名峰の大展望台。

2009 年 7 月下旬に、甲斐駒と仙丈ヶ岳を北沢峠テント 1 泊で登ったが、その頃は百名山踏破しか念頭に無かったので、アサヨ峰という名山らしからぬ名前の三百名山は全く眼中になかった。

6 月 7 日 (金) 移動日

天気も良く、宿泊予約している長野県伊那市の南アルプス林道の起点、仙流荘には夕方まで着けば良いので、気分が楽だ。

8:45、自宅発。東北道本宮 IC～岩舟 JCT～北関東道～高崎 JCT～関越道～藤岡 JCT 上信越道～佐久小諸 JCT～中部横断道無料区間～佐久南 IC～八千穂高原 IC～と順調に進む。

上信越道が藤岡 JCT から更埴 JCT まで開通する以前は、木曾山脈や伊那山地、赤石山脈などの長野県中・南部の山には、磐越道から新潟経由北陸道で上越 JCT から南下してアクセスしていた。開通してからは移動距離も時間も短縮された。いつも疑問に思っていたのは岡谷 JCT で中央道に乗り継ぐのに、ずっと北の更埴 JCT まで北上することだった。

道路地図を見てみると佐久市から国道 142 号が岡谷市に (これは旧中山道か) もう一本が国道 141 号と国道 299 号で茅野市に通じていて、いずれも中央道に連絡している。このうち中部横断道が 141 号に沿うような形で工事が進められ

ている。自分の車のナビはデータが古いので、地図上で最短と思われた佐久小諸 JCT から中部横断道に進み、現在の終点の八千穂高原 IC で降りる。

ここまでは順調に來た。ここからが時間がかかった。八千穂高原から麦草峠(2127m)、蓼科高原などの八ヶ岳連峰を横断する道路(メルヘン街道)は樹林の中の山岳道路だった。素直に更埴 JCT まで北上し、長野道~中央道経由の方が時間的には早かったと思われる。急がば回れだったのかも知れない。

仙流荘には 15 時過ぎ着。自宅から 6 時間半かかった。

登山の前泊を車中泊でなく畳の上で寝るのは久しぶりだ。翌 6 月 8 日(土)から南アルプス林道バスが戸台口(仙流荘)から北沢峠まで再開する初日なので宿泊者がたくさんいると思ったが、食堂には自分も入れて 3 グループ 5 人分しか用意されていなかった。素泊まりの客がいるのかもしれないが。

仙流荘内にあるバス乗車券の券売機の調整(北沢峠まで運行再開)が終わったとの連絡があり乗車券を購入する。翌日は 5:30 にならないと仙流荘の玄関は開かない。

始発時刻は 6:05 なので早めに就寝。

6 月 8 日(土)アサヨ峰登山

4 時前に目が覚め、5 時前から食事。既に車中泊の人達が仙流荘の玄関前とバス停の前に長蛇の列を作っていた。グループの人達は、乗車券購入のために並ぶ人とバス停に並ぶ人を分けていた。自分はもたもたしていたのでバス停の並びは 50 番目位だった。バスは中型で補助いすを含めて 30 人乗りくらい。仙流荘の人が 300 人くらいまでは大丈夫と言っていた(10 台のバスあり)。自分は 2



台目に乗ることができた。補助いすもすべて使う。ザックは自分の前に抱える。南アルプス林道は緊急車両のほかはこのバスしか通行できない。傾斜とカーブの多い広くはない舗装路を 55 分かけて北沢峠に着く。

北沢峠は山梨県南アルプス市と長野県伊那市との境界にあり、標高は 2032m。バスから降りたらすぐに標識があり(写真次頁上)、登山者たちは甲斐駒や仙丈ヶ岳を目指し急ぎ足で散らばって行く。

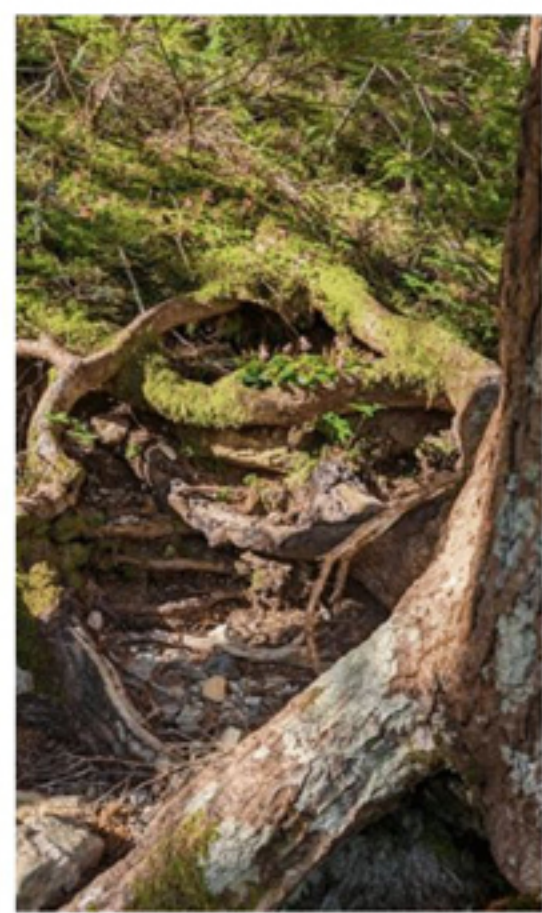
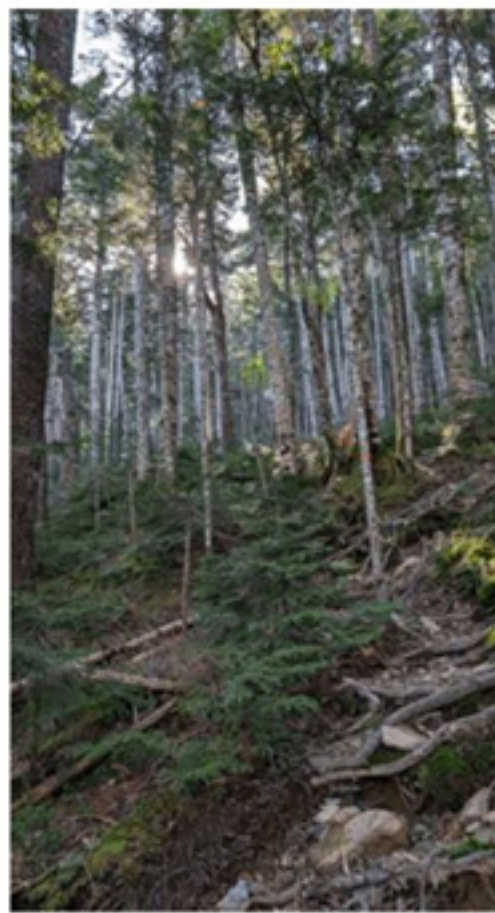


7時北沢峠発。長衛小屋（※）までは緩やかに少し下る。長衛小屋の前の橋を渡ったところが仙水峠（2264m）と栗沢山（くりさわやま 2714m）を目指す分岐になっていて（写真下左）、自分は栗沢山を経由してアサヨ峰に登り、下山時に栗沢山から仙水峠を経由して北沢峠に戻る計画だ。

※2024年版の「山と高原地図」では長衛小屋となっているが、かつて（2007年版）は駒仙小屋の名前だった。またかつては長衛荘の名前だったところは「こもればし山荘」に変わっている。紛らわしいので要注意だ。

7:20、栗沢山に向け山に入って行く。結構な急斜面だ、踏み跡がしっかりしていてきちんと赤テープの目印があり迷う心配はない。木漏れ日がきれい（写真下中）。木の根の間にショウジョウバカマが咲いている（写真下右）。

7~8歳くらいの女の子とその両親の3人が歩いていた。栗沢山山頂直下までに出会ったのはこのグループだけで。このルートはあまり歩かれていないのか。



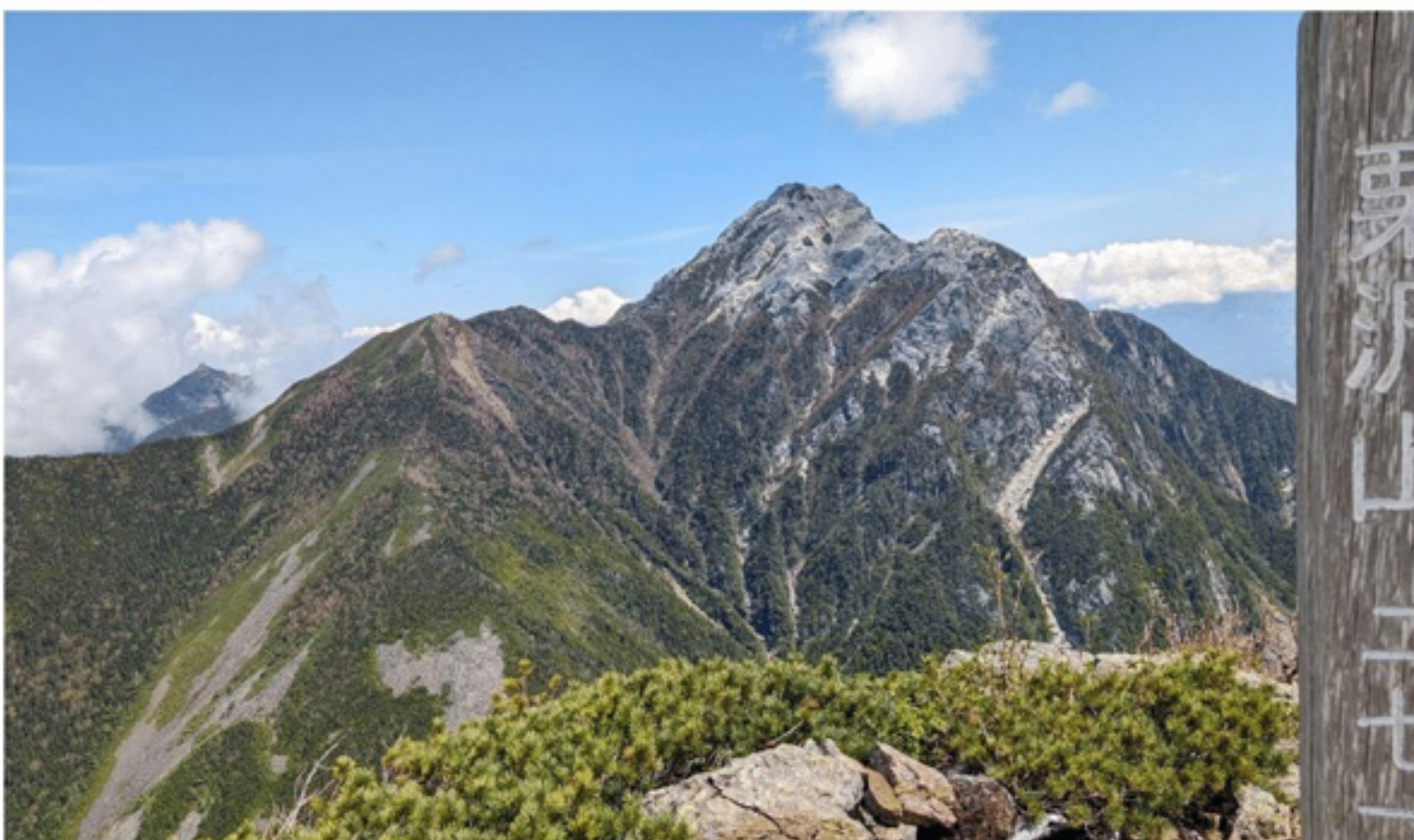
樹林帯の尾根に出ると樹間から甲斐駒が見えてくる。しばらくすると樹林帯を抜け出し、栗沢山の山頂らしきものが見えてくる（写真次頁上左）。ハイマツの岩場を登って行く（写真次頁上中）。その岩塊は山頂でなかった。いったん緩く下り登り返して栗沢山山頂着、9:45~10:15。

甲斐駒をバックに（写真次頁上右）。標柱の上に誰かが置き忘れたペットボ

トルの意味が分かりますか？・・・宇多田ヒカルです。



甲斐駒の雄姿（写真下）。白いのは雪でなく花崗岩。

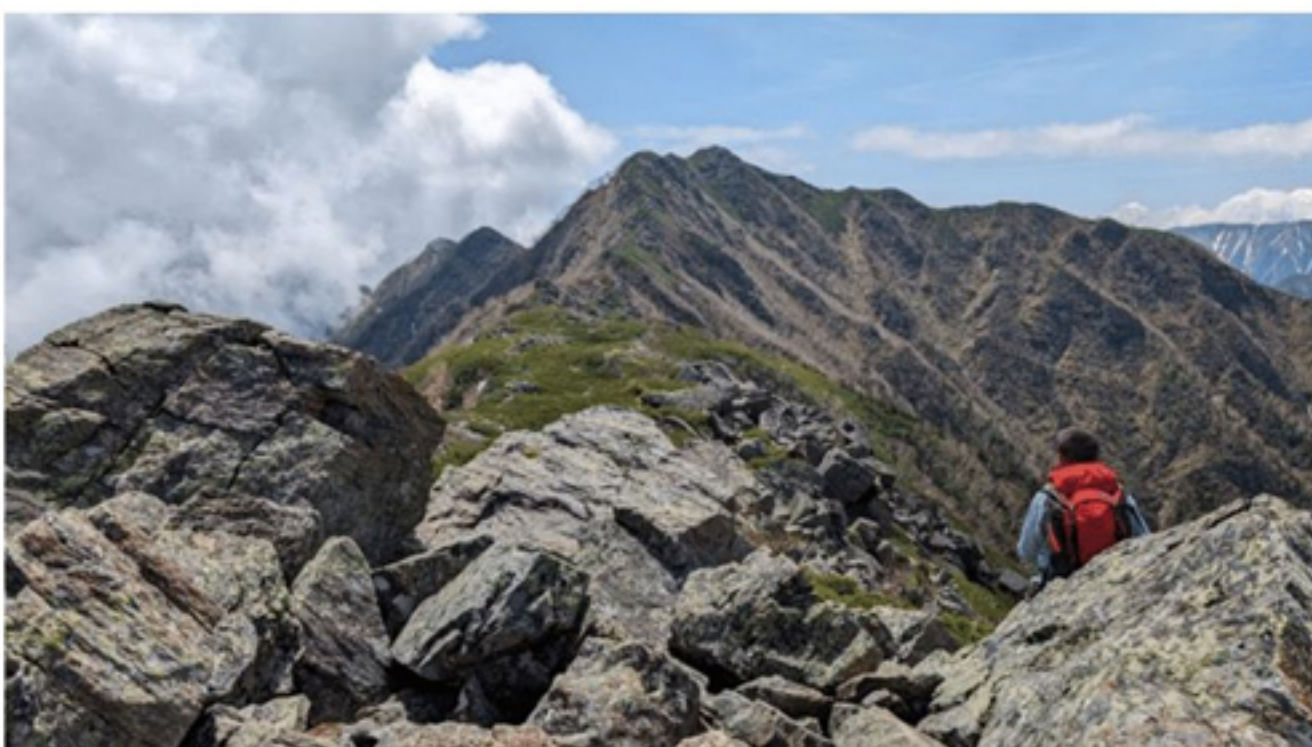




南アルプスの女王
仙丈ヶ岳
(写真左)。



富士山に次ぐ日本第2の
高峰 北岳
(写真左)。



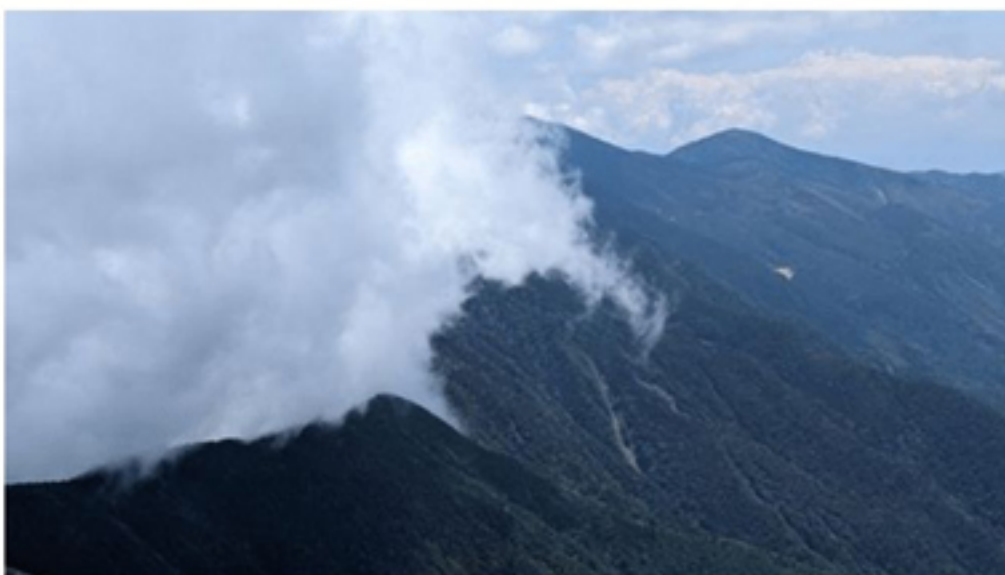
これから登る、今回の
目標
アサヨ峰
(写真左)。



鎖場もあった（写真左）。
アサヨ峰の右手に北岳（写真右）。アサヨ峰の山頂
には人の姿が見える。



11:15 着、日本三百名山2
88番目のアサヨ峰（写真
左）。残り12山。



鳳凰三山方面は雲の中に隠
れてしまった。（写真左）。

20分ほど休み、下山、栗
沢山に戻る。

途中から雲が湧いてきた。(写真上)。



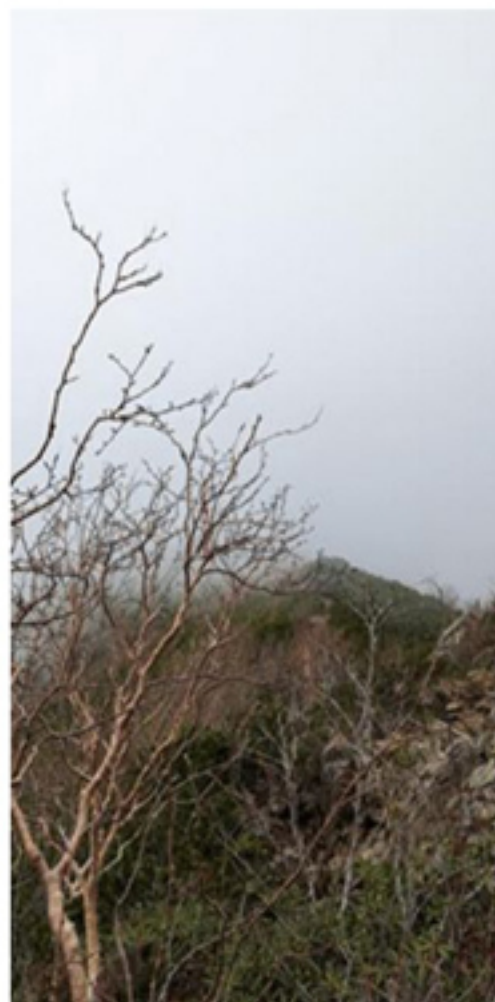
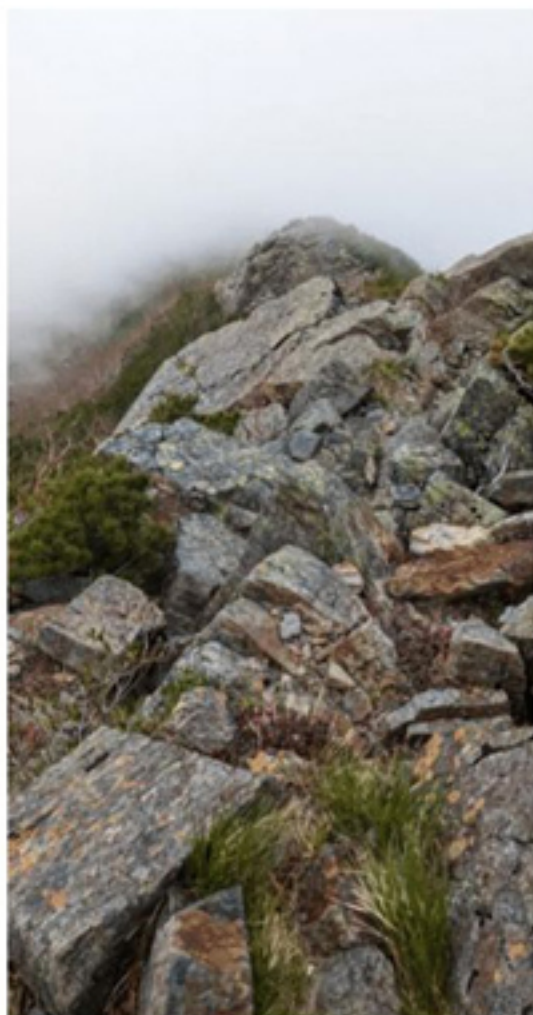
栗沢山山頂着 12:27。周りはガスで先ほどの眺望はない。気が急くが仙流荘のおにぎりエネルギーを補給する。

12:40、往路と異なる仙水峠に向けて下山を開始する。上から下方を望む。まずは急なガレ場だ(写真下左)。

慎重に下る。

下方はガスで視界が効かない。

20分位下るとショウジョウバカマの群生がところどころ現われ、見事な群生地もあった(写真下)。





栗沢山から1時間で甲斐駒への登山口の一つ、仙水峠(2264m)に下る(写真上左、右)。
ごつごつした岩礫の峠だ。左写真中央奥に見えるのが雲を被る仙丈ヶ岳。



仙水小屋はまだ営業していない(写真下左)。14:38、長衛小屋前の登山口着



栗沢山での長い休憩を含めて7時間余の山行を終える。北沢峠15時発のバスに間に合うように急ぐ。朝出会った3人の親子連れも急いでいた、娘さん頑張りましたねと声をかける。



15年前にテントを張った長衛小屋のテント場にはまだ余裕があった(写真左)。本格的なシーズンはこれからだ。

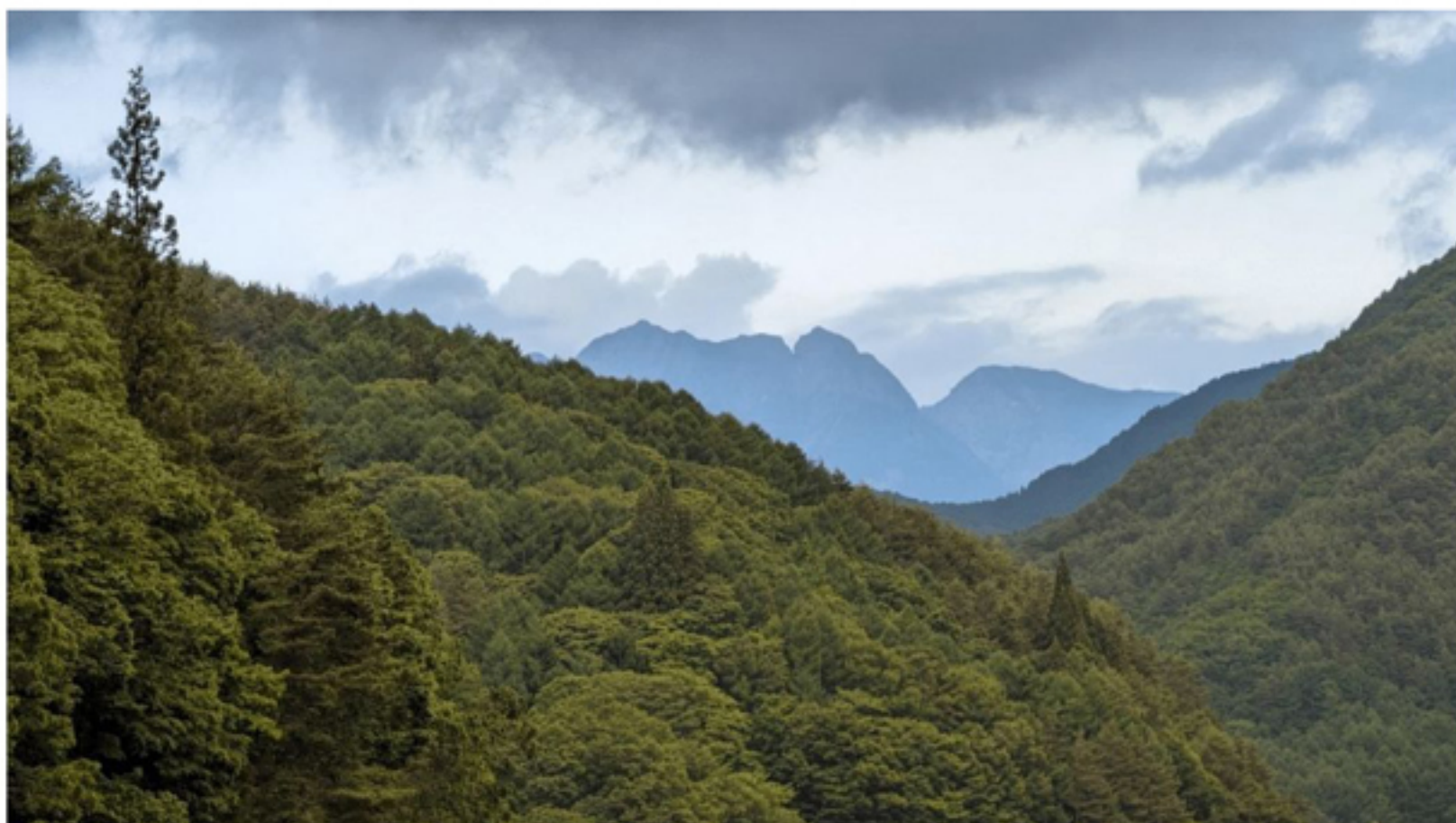
北沢峠のバス待合所には多くの人が出た。2台目のバスに乗ることができた。バスの運転手さんが車窓から見える山の説明をしてくれる。

戸台川を挟んで横たわる鋸状の急峻な山容の鋸岳を見上げるとその迫力に圧倒される。こんな山に登れるのかと不安になる。残り12山の中では自分にとって最難関と思っている。

バスの中の登山者は多くの人々が居眠りしている。早朝からの行動と山行で疲

労困憊だろう。

16 時前、仙流荘着。振り返ると山間から鋸岳が望まれる。思わず武者震いし、踏破を期する（写真上、前日夕写す、ズーム）。



17 時前帰宅の途に就く。往路の蓼科高原や八ヶ岳連峰を横断し中部横断道を経由する経路は夜間でもあり、懲りたので、急がば回れで、素直に中央道～長野道～更埴 JCT～上信越道を経て関越道、北関東道、東北道経由で帰宅する。何回か PA で休み、23 時前帰宅。疲労困憊だが神経が冴えてすぐに眠れそうにないので、アルコールでクールダウンし就寝する。

雄国沼

公民館の事業として、雄国沼のニッコウキスゲに出逢うハイキングが計画された。昨年は 7 月 8 日だったが小雨と低温のため、現地で雄国沼が中止となり、裏磐梯中瀬沼、蓮華沼ハイキングに変わった。今年はリベンジで何としてでも雄国沼に行き、皆と一緒にニッコウキスゲに逢いたかった。

時期は昨年より早めの 6 月 29 日になった。梅雨時期の天候は安定せず変わりやすく、1 週間先の天気予報もころころと変わる。

6 月 27 日（木）下見

27 日は予報通り天気は良かった。この時点で本番の 29 日は降水確率が 60～80%だった。

公民館スタッフの一人、Yさんと二人で下見に行った。6 月 22 日から 7 月 7 日の間は雄子沢登山口の駐車場は使えない。

7時過ぎ自宅発。北塩原村ラビスパ裏磐梯発 8:25 のシャトルバスに乗車。乗客は 20 人くらいか。8:45、雄子沢登山口を皆が出発した後ゆっくりと出発。登山道はよく歩かれていて、危ない所やぬかるみはない。途中で 2 回ほど休



み 1 時間半ほどで休憩舎着（写真左）。

少し休んでニッコウキスゲに逢いに木道を歩く。多くのハイカーがいた（写真 2 段目）。喜多方市の萩平駐車場からシャトルバスで金沢峠まで来て、沼に降りてくるお客さんが多いようだ。



29 日の自分たちのコースのひとつ。



ニッコウキスゲが咲き誇っている（写真左）。しかしドカーンとした迫力は感じなかった。今年は少ないような気がする。

雄国山（う百、1271m）を背景に（写真下）。



木道の分岐から金沢峠まで15分と標識に書いてあるが 480 段以上の擬木と土の階段で足の悪い人や高齢者にはきついと思われた。29日、本番の要注意場所だ。

金沢峠の展望台から沼を見下ろす。背後の山は猫魔ヶ岳（う百 1404m）（写真上）。良く見ると猫魔ヶ岳の山頂の上に磐梯山（百 1816m）が頭を出している。



展望台のテラスで昼食にする。

金沢峠から休憩舎までの戻りは、木道でなく管理用の軽トラも通行する未舗装の細い道を下って行く。トイレはこの道を峠から少し下ったところにある。

休憩舎からは往路の登山道を雄子沢登山口まで歩き、13:40 発のシャトルバスでラビスパに戻る。施設の西方に、筋状に雪の残る飯豊連峰のきれいな山容を眺める。14時過ぎ帰宅の途に就く。

6月29日（土）本番

前日から天気予報が変わり、29日の雄国沼は降水確率が低い予報となった。（「てんきとくらす」登山指数A）。しかし自宅近辺では29日未明には雨が降った。朝には天候が回復した。

公民館集合、8時前、Bコース（喜多方市萩平駐車場～金沢峠）、シャトルバスの乗車券購入のためスタッフ4人のワゴン車がまず出発する。続いてBコースの44人乗りの大型バスが出発。最後にAコース（北塩原村雄子沢口～休憩舎～金沢峠～萩平駐車場）の中型バスが22名を乗せて出発。合計70人の団体だ。

自分は70歳以上が半数を占めるBコースに同伴する。車内で注意事項の説明をする。以下Bコースの内容。

萩平駐車場に9時着。広い駐車場には他県ナンバーも含めて50台以上（もっとあったかもしれない）が既に停まっていた。

9:45のシャトルバスに乗車。事前に連絡してあったのでバスを増便してく

れた。確かに林道は傾斜があり、カーブが多くすれ違いができない。上りのバス3台は中間地点の若干幅の広い所で待機し下りのバス3台と交差する。

10:10 金沢峠着。展望台近くにブルーシートを敷き、本部（のつもり）とする。スタッフの誰かが必ずいることを皆に伝え、シャトルバスの出発時刻を再確認して、各町内会の班毎に雄国沼への長い階段（480段）を降りていく。



複数のスタッフが高齢の足腰の弱い人の対応に当たったため、自分は沼に降りず、結局一人でブルーシートの番をした（写真左）。早々と弁当を食べ、暇を持て余した。かなり早い人が戻ってきたので、シートを頼み、写真中央の5分で行ける鳥居のあるすぐ近くのピークに登り、この日唯一の“山登り”をした。

雄国沼と金沢峠を挟んで反対側（西側）の喜多方市方面遠望（写真下）。飯豊連峰は見えなかった。もう少し右か？



Aコース、Bコースともに事故やケガもなく、70人参加の雄国沼ニッコウキスゲ観賞の山行を無事終了する。道の駅猪苗代で買い物休憩をして帰途に就く。

18時から有志による“ヤマオロシ”反省会（9人参加）で気持ちの良い酒盛りをして一日を終わる。

南アルプス北部の

概念図

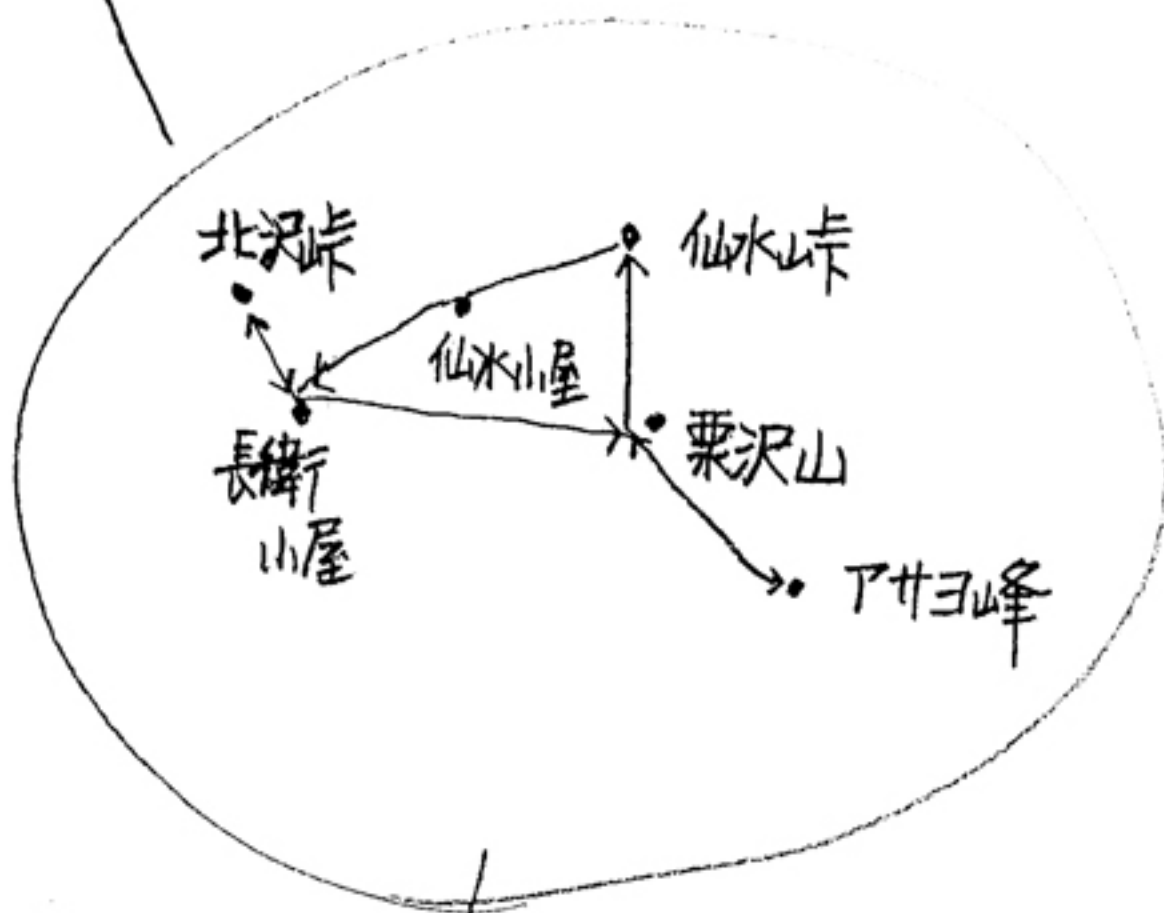
1:50000

←仙流荘

鋸岳

南アルプス林道

甲斐駒ヶ岳



今回歩いた範囲

鳳凰山

仙丈岳

広河原

北岳